

CHAPTER 40

Little Labs IBP



概要

Little Labs IBPフェイズ・アレンジメント・ツールは様々な位相のずれた音を修正する際に好ましくないコムフィルター音を簡単に取り除くことができるフェイズに関する問題の解決するデバイスとして設計、開発され、「それを置くだけ」のデバイスとしてではなく、クリエイティブなフェイズを操る音色ツールとして多くのオーディオ・エンジニアに認められてきました。

ダイレクトに接続して、マイクの信号を拾い、アコースティック・ギターやヴォーカルやドラムセットのマイクや複数のスピーカーを持つギターアンプ等、どんなシーンでも Little Labs IBPフェイズ・アレンジメント・ツールはフェイズに関する問題を素早く、簡単に解決します。

Little Labs IBP スクリーンショット



図 132. The UAD Little Labs IBP プラグイン・ウィンドウ

Little Labs IBP コントロール

すべてのパラメーターはコントロール名に分かりやすくラベリングされています。コントロールについての詳細な説明は361ページの図132を参照してください。

ディレイ・アジャスト

このパラメーターはユニバーサル・オーディオのワークステーション・バージョン特有のもので、ディレイ・アジャストは単純に入力信号を0.0から4.0ミリ秒の間でコントロールすることができます。「アナログ」のフェイズ・アジャスト・パラメーターと違い、ディレイ・アジャストは純粋な「デジタル」なので、その値を等しくアジャストしていきます。それは他のリージョンに対して少し遅らせて再生するので、ディレイ・アジャスト手動でオーディオ・リージョンを動かして調整することと同じ機能を果たします。

ディレイ・アジャスト・バイパス

このスイッチはディレイ・アジャストをバイパスさせます。このスイッチが押し込まれている状態(GUIはより暗くなります)ではディレイ・アジャストはバイパスされています。

フェイズ・アジャスト

フェイズ・アジャストは Little Labs IBPのメインのパラメーターです。入力信号のフェイズ・シフトを絶え間なく可変的にコントロールします。フェイズ・アジャストの範囲はフェイズ・アジャスト・スイッチの範囲である90度/180度に依存するので、90度か180度を選択します。

ハードウェアの Little Labs IBPはフェイズ・シフトを生じさせるためにオールパス・フィルターを用いたアナログ・デバイスです。オールパス・フィルターは周波数の機能として信号を置き換えます。(それらはその周波数に依存しています。)モデリングされたUADバージョンは正確にハードウェアのすべての機能や特性をモデリングしています。したがってフェイズ・アジャスト・ノブを使用するフェイズ・シフトはデジタルドメインの数学的にコントロールされた信号のように「完全」ではありません。フェイズ・アジャストが並んでいる2本の同じトラックの内、1本に180度のフェイズ・アジャストをセットした場合でも音はキャンセルされません。

注意:

標準の180度フェイズシフトが必要な場合はフェイズ・インバートを使用してください。

「デジタル的な」均等化されたシフトから独立フェイズシフトを望む場合にはディレイ・アジャスト・パラメーターを使用してください。

フェイズ・アジャスト・バイパス

このスイッチはフェイズ・アジャストをバイパスさせます。このスイッチが押し込まれている状態(GUIはより暗くなります)では信号フェイズ(位相)は逆相になっています。

フェイズ・インバート

このスイッチはミキシング・コンソールのフェイズ・ボタンのように入力信号の極性を逆(フェイズを180度逆にする)にします。スイッチが越しこまれている状態(ボタンがより暗く写る)場合、フェイズは逆さになっています。

フェイズ・アジャスト90° /180°

このスイッチはフェイズ・アジャスト・パラメーターの範囲を決定します。より良いフェイズ・アジャスト・レゾリューションを得たい場合にはこの機能が役に立ちます。このスイッチがオフの状態(GUI上ではより明るく)ではフェイズ・アジャストは180度です。このスイッチがオンの状態(GUI上ではより暗く)ではフェイズ・アジャストは90度です。

フェイズ・センターLo/Hi

このスイッチは、強調する周波数帯を設定します。スイッチがオフの状態(GUI上ではより明るく)フェイズ・センターはハイ(高域)です。スイッチが押し込まれている状態(GUI上ではより暗く)ではフェイズ・センターはロー(低域)です。

注意:

90度や180度の使用とLo/Hiのパラメーターが、個々のサウンドに対して(例えばキックやタムに
い対して)使用されるケースが典型的な用途です。

パワー

このスイッチはプラグインをオン/オフすることができます。スイッチがオフの時にはプラグインは
バイパスされます。スイッチがオンの時(押し込まれた状態)ではプラグインはアクティブです。そ
して緑色のLEDが点灯します。

Little Labs IBP レイテンシー

Little Labs IBPは、音の精度を驚異的に増すために、内部でアップサンプリングという技術を使
用しています。アップサンプリングを行うということは他のUADプラグインよりもレイテンシーが少
しだけ大きくなります。この補正を行うためにDelayCompかTrackAdvで「サンプル」に任意のパラ
メーターを入力してください。詳細については97ページの「アップサンプリングしたプラグインの補
正」を参照してください。

注意:

ホストアプリケーションが信号経路内のプラグイン・レイテンシーを補正する設定が可能か、また
は出力のみに使用する場合にはLittle Labs IBP を補正する必要はありません。90ページの「ホ
ストPDCの実行」を参照してください。

WebZineの記事について

オールパス・フィルターによるフェイズシフトの興味深い(技術度の高い)記事が「オールパス・フィ
ルター」というタイトルで掲載されています。

弊社のウェブマガジン「Ask Doctor」の2008年11月の記事を参照してください。

・ <http://www.uaudio.com/webzine/2008/november/doctors.html>